

令和7年7月10日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立御厨小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

○計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

○実施している

・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年からの英会話学習の実施が、英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっている。第1学年からEAAと接することで、児童は外国人とふれ合うことに抵抗なくコミュニケーションを図ることができる。
- ・第1学年から英語に触れる、聞く、話すの機会が1時間の内に設定され、英会話の時間を楽しみにしている児童が多く、学習の成果が感じられる。
- ・低学年からの積み重ねにより、高学年では、外国の文化や英語を聞くこと、話すことに意欲的な様子や児童同士が学び合い様子がみられた。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- ・ALTやEAAと積極的に挨拶をしたり話しかけたりして自然にコミュニケーションをとることができ、英会話学習の時間を楽しみにしている児童が多い。
- ・5, 6年生の英語チャレンジDAYでは、海外旅行に行く設定で、多くのALTやEAAを相手に飛行機の中や買い物でのやりとりの会話を楽しんだ。学んだことを活用しながらコミュニケーションをとることの楽しさを実感できた。

<保護者>

- ・英会話学習、外国語活動の様子を学年だよりや学校だよりで紹介することで、家庭での英語の学習について話をするきっかけとなっている。

3. 実施の効果及び課題

- ・1年生から外国語に触れ、日本と異なる文化を感じ続けていることにより、外国籍の友達に対しても違いを尊重しながら、学校生活を送ることができている。
- ・英会話学習のペアワークやグループワークを通して、児童同士が互いに高め合っていける関係づくりや雰囲気づくりを進めていきたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・児童が外国語を意欲的に使うための目的・場面・状況を明確に設定し、単元のゴールや毎時間のめあてなど学習の動機付けを工夫する。
- ・授業中は、教員が英語で説明したり、コミュニケーションを図ったりするように努め、児童がより英語に慣れ親しむように取り組んでいく。また、発音を練習する場面では、ALTやEAA、デジタル教科書を積極的に活用し、児童の「聞く力」や「話す力」を伸ばしていく。
- ・指導の際には、担任は各学年の学習内容を把握し、系統性を意識して指導にあたっていく。高学年に関しては、オンラインを利用した他校との交流や、校外学習や修学旅行での班別行動の際に英会話を実践する機会を設ける等、学習したことを実践する場を設定していきたい。